

# 中津川市地域医療実習 感想文

久留米大学 4年生

今回の実習に対して、総括として感想文の記載をお願いいたします。文量はおまかせします。

中津川市地域総合医療センターのHPでご紹介させていただく予定です。

完成しましたら [med-cen@city.nakatsugawa.gifu.jp](mailto:med-cen@city.nakatsugawa.gifu.jp) 宛に添付して送ってください。

今回の地域医療実習では、診療所での外来診療だけでなく、発達支援センター、高齢者施設、就労支援事業など、地域のさまざまな現場を見学することができた。これまで医療というと病院や診療所での診療を中心に考えていたが、実際に医療は福祉や行政、地域の多職種と連携しながら住民の生活を支えているということを実感した。

発達支援センターでは、実際に子どもたちと一緒に遊ぶ機会があり、とにかく子どもたちが可愛く、私自身も夢中で遊び、最後にはへとへとになるほどで、自分の体力のなさを実感するほどだった。子ども一人ひとりで性格や好き嫌い、得意なことや苦手なことが異なり、保育士の方々がそれぞれの特性を丁寧に把握し、スタッフ同士で情報共有を行いながら、子どもが嫌な気持ちにならないよう配慮しつつ、楽しくのびのびと成長できるよう支援している姿がとても印象的で、子どもだけでなく保護者への支援も重要であることを学んだ。

また、特別養護老人ホームやデイサービスの見学、ケアマネジャーの訪問への同行を通して、高齢者が地域で生活をするために多くの職種が関わりながら支援していることを理解することができた。ケアマネジャーの訪問に同行した際には、利用者の方から「いい医者になると思いますよ」や「人生はくよくよしないことだよ」といった言葉をかけていただき、非常に心に残る出来事であった。その言葉を聞き、医師として人と向き合う仕事の重みや温かさを改めて感じ、これからこの言葉を忘れずにいたいと思った。

さらに、就労継続支援B型事業の見学では、障害のある方が社会とつながりながら自分のペースで働くことができる場が地域の中にあることの重要性が理解できた。

診療所の外来では実際に患者の問診や診察を行う機会をいただき、臨床の実際を学ぶ貴重な経験となった。診療においては疾患だけでなく患者の生活背景や思いに寄り添う姿勢、いわゆるヒューマニズムが非常に大切であることを実感した。同時に、症状から鑑別診断を考える臨床診断の力がまだ十分ではないことも感じ、机上の学習だけでなく実際の臨床の中で経験を積むことの重要性を改めて認識した。

また、実習の合間には馬籠宿や岩村などの地域を訪れる機会もあり、地域の文化や生活を知ることができた。特に、ひな祭りが1か月遅れで行われている地域の風習には驚き、地域ごとの文化の違いを感じることもできた。さらに、ゴミ捨て場が地域に限られた場所にしかないなど、都市部とは異なる生活環境もあり、高齢者にとっては日常生活の中にも困難があるのではないかと感じた。一方で、そのような課題に対して地域の中でさまざまな支援サービスが整えられており、地域全体で支えようとする仕組みが作られていることに感銘を受けた。

さらに、ごちゃまぜ会議のように、多職種や地域のさまざまな立場の人が集まり地域の課題について話し合う場が設けられていることも印象的であった。このような場を通して地域の課題を共有し、連携して解決しようとする取り組みは、地域包括ケアを実現するうえで非常に重要であると感じた。

実習の中では、多くの患者さんや地域の方から「素敵な先生になってください」「初心を忘れないように頑張ってください」といった温かい言葉をかけていただいた。その言葉をいただいたことが本当に嬉しく、同時に医師という職業の責任の大きさも感じた。医師を目指して勉強を続ける中で、知識や技術ばかりに目が向いてしまうこともあるが、今回の実習を通して、医療とは人と人との関わりの中で成り立つものであることを強く実感した。今回出会った患者さんや地域の方々の言葉を忘れず、初心を大切にしながら、人に寄り添える医師になれるようこれからも努力していきたい。

名古屋大学医学部附属病院総合診療科の伴信太郎先生、初日から最終日まで送迎や中津川についてたくさん教えてくださった鈴木さん、大橋さん、ゲストハウスやなぎ屋さんをはじめスタッフの皆様には感謝申し上げます。本当にありがとうございました。